



エコーブ生活協同組合の 本業を通じた地域貢献のとりくみについて

エコーブ生活協同組合 組合員活動部 阿利浩二



1



エコーブ概要 (2020年3月末日現在もしくは2019年度実績)

組織概要



- 設立 1983年4月1日
- 本部所在地 福岡県糟屋郡篠栗町
- 組合員数 福岡県内で517,790世帯
(県内全世帯の22.37%が組合員)
- 出資金(資本金) 204.20億円
- 供給高(売上高) 557.25億円
- 職員数(従業員数) 2,954名

【主な事業内容】 ※子会社によるものも含む

- 無店舗事業 (班配達・個別配達など)
- 店舗事業
- 「夕食(弁当)」や「水」の宅配事業
- 福祉事業 (高齢者、子ども・子育て、しょうがい者)
- 共済・保険事業 ■ 電力小売事業
- 生活関連サービス事業 (旅行・住宅・葬祭など)
- 農林産物の生産事業 (しいたけ・ミニトマト)
など...



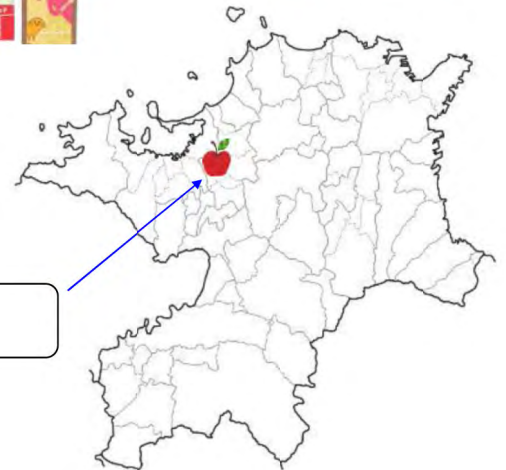
供給高に占める割合が無店舗事業で約84%
コロナ下、組合員の要望が高まりました。



エフコープの組合員加入状況(最新)



組合員数	54万1,177名
組織率 (世帯数に対する組合員数)	23.23%



エフコープ篠栗本部
住所：糟屋郡篠栗町中央1-8-1

2021年2月末見込み

エフコープの事業高

事業高	約634億円
------------	---------------

県内全域に事業所があります

- 2月度決算から、2020年度の損益の到達「見込み」は◇供給高634億 ◇経常剰余金28億。
供給高は、1993年度の約639億円・92年度の約634億円に次いで設立以来2・3番目に多い見込み。
経常剰余金は、1990年度の約21.5億円を大きく上回り、過去最高となる見込み。



エフコープの組合員数推移(最新)

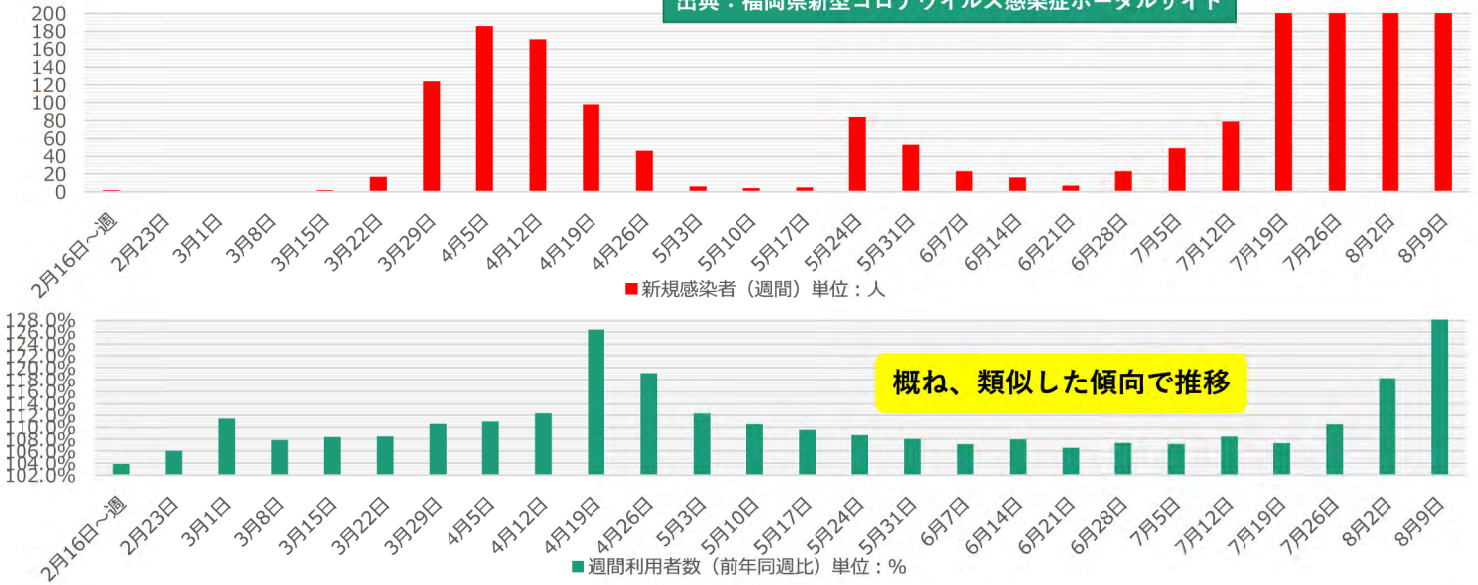




「コロナ感染者数」と「コープの配達」の利用者数の関係



出典：福岡県新型コロナウイルス感染症ポータルサイト



「外出自粛要請」と「コープのお店」でのお買い物金額の関係





エコーブ^o基本理念



ともに生き ともにつくる くらしと地域

1997年策定



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

めざすところは同じ

コロナ下で組合員や地域のみなさまをはじめ、お取引先様・関係団体のご協力と従業員の奮闘により、「ライフライン」としての機能を維持できました。

「新型コロナ」の感染拡大だけでなく、近年はさらに大規模自然災害や地政学リスクなどあらゆるリスクが顕在化しており、さまざまな緊急事態の発生への懸念があります。

あらためて、協同組合が、「SDGS」達成への貢献を果たす役割として大きいことを認識しました。



市町村等との主な連携項目

- (1) 地域産業の活性化に関すること ……12P
- (2) 行政及び地域の情報発信に関すること ……15P
- (3) 健康づくり・食育に関すること ……16P
- (4) 子育て支援・教育に関すること ……17P
- (5) 地域福祉の振興に関すること ……18P
- (6) 暮らしの安全・安心に関すること ……19P
- (7) 環境に関すること ……26P
- (8) 防災・減災対策や災害時支援に関すること ……27P
- (9) その他、地域社会の活性化・市民サービスの向上に関すること ……29P
- ◆ その他の市町村との連携事例 ……31P



エコーブと他団体の連携実績

協定名	連携先
包括連携協定	・うきは市（2015年） ・篠栗町（2017年） ・東峰村（2020年） ・宗像市（2020年）
災害時相互協力協定	・北九州市社会福祉協議会（2016年） ・福岡県社会福祉協議会（2018年）
東日本大震災等からの復興に向けた寄り添い活動に関する友好協力協定	2017年 ・JAふくしま未来 ・コープおおいた
災害発生時の相互協力に関する協定	筑紫女学園大学（2019年）
北九州市における食品ロス及びレジ袋削減に向けた取組に関する協定	2018年 ・北九州市 ・市民団体 ・北九州市内の小売事業者6社
『フードバンクを活用した食品ロス削減推進』 共同研究プロジェクトに係る共同研究協定	2017年 ・福岡県リサイクル総合研究事業化センター ・フードバンク北九州ライフアゲイン ・フードバンク福岡
子ども食堂の食品の保管場所に関する協定	ふくおか筑紫フードバンク運営委員会（2016年）
子ども食堂の支援に向けた取組に関する協定	2019年 ・北九州市 ・子ども食堂ネットワーク北九州
見守りネットふくおか協定	福岡県（2013年） ⇒翌年、各自治体と協定締結
消費者被害の防止に係る共働に関する協定	福岡市（2017年）
福岡市水源の森づくり共働事業に関する協定	福岡市水道局（2018年）

連携協定を結ぶ市町村 との連携事例紹介



11

(1) 地域産業の活性化に関すること

■ 地元産品の拡充・発信に関する連携

【朝倉郡東峰村】



福島のりんごと東峰村の柚子を
使用したジャム、グラノーラを開発
実績（2018年～）
農産物直売所・共同購入
約3,000点販売

【宗像市】



地島天然わかめ
実績（2019年度）
5店舗・篠栗本部限定企画
約700点販売

【うきは市】



本部スタッフ向けの販売会を実施
実績（2020年7月）
桃150パック、ぶどう50パック完売

12

(1) 地域産業の活性化に関すること

■ 地元産品の拡充・発信に関する連携 【地元食材を使った朝倉地域伝統の蒸し雑煮の開発】

【小中一貫校の給食に】

【地域団体商標登録に向けて】

【コロナ下での子どもたちの給食】



朝倉地域（朝倉市・筑前町・東峰村）のすべての小・中学校（24校）で、児童・生徒数約6,000名の学校給食に登場



あさくら観光協会などを中心に構成されるプロジェクトとともに、開発した「筑前朝倉蒸し雑煮」。昨年10月から、エフコプの共同購入チラシや店舗で新発売されました。その後、あさくら朝倉地域の道の駅・農産物直売所でも取り扱いがはじまり、12月までの3カ月のあいだで約30,000パックのご利用をいただいています。



学校で食に関する指導を担われている先生（栄養教諭）より、「蒸し雑煮」のことや、原料のひとつとなっている同村産の「しいたけ」のお話がありました。

(1) 地域産業の活性化に関すること

■ 復興支援活動から被災地をつなげた商品が生まれました。

【東峰村で組合員の柚子狩り企画】

【福島市で東峰村の方がりんご収穫】



11月3日、コロナの影響で組合員を集めてできた企画のひとつでした。



「グラノーラ」



平成29年九州北部豪雨で被災し、仮設住宅にお住まいだった方が福島に訪問



お互いの交流から福島と東峰村の特産品を使用した6次化商品を開発できました！



(2) 行政及び地域の情報発信に関すること

■ 行政のイベントや地域情報に関する広報連携

エフコープが運用している、子育て応援サイト「CHEER!days」で、地域の親子で楽しめるスポットやイベントのご紹介などの広報連携。



※プレビュー数年間約48万



「CHEER!days」
サイトはこちら



管理栄養士・けんちゃん先生のライブキッチン
宗像市との広報連携で、宗像市産のイカを使ったライブキッチンを配信

15

(3) 健康づくり・食育に関すること

■ コープ共済連との健康づくりに関する連携



【2019年度 ウォーキングイベント実施箇所】

- ・うきはウォーキングsupported by coop共済(1,110名参加)
- ・コーすけウォーキングなかま(90名参加)
- ・コーすけウォーキング筑後(193名参加)
- ・篠栗春らんまんハイキングsupported by coop共済(900名参加)
- ・コーすけウォーキング糸島(266名参加)

【健康づくりステーション設置箇所】

- ・(うきは市) 道の駅うきは
- ・(糸島市) 白糸の滝
- ・(篠栗町) カブの森公園、オアシス篠栗
- ・(宗像市) 道の駅むなかた

16

(4) 子育て支援・教育に関すること

■ 子育て層への買い物支援に関する連携



(5) 地域福祉の振興に関すること

高齢者福祉

- 居宅介護支援（ケアマネジメントサービス）
- 通所介護（デイサービス）
- 訪問介護
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
- 小規模多機能型居宅介護
- ふれあいサービス（介護保険外自費サービス）
- 夕食宅配サービス

ふれあいサービス（介護保険外自費サービス）

- 高齢者・しょうがい者支援サービス
- 家事支援サービス
- 子育て支援サービス

しょうがい福祉サービス

- 特定相談支援・障害児相談支援
- 居宅介護（ホームヘルプサービス）
- 放課後等デイサービス
- しょうがい者グループホーム



しょうがい者グループホーム
りーふ・あつる（うきは市）

(6) 暮らしの安全・安心に関すること

■ 見守り協定を生かした高齢者の見守りに関する連携



事例1

配達時、いつもはインターフォンを押すと鍵を開けるのですが、その日は「鍵は開いてる…」との声が聞こえました。ドアを開けたところ、組合員さんが玄関で具合が悪そうにされており「救急車を呼んでほしい…」とのことでしたので、すぐに救急車を呼びました。2日前にトイレで倒れられ、飲食されていなかったそうです。同時刻に他の業者さんが訪問されていたそうですが、不在連絡票を置いて行かれただけだったそうで、気が付いて良かったです。



人命救助 (地域見守り)

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
件数	4	5	5	8	9	20	21	19
表彰人数	4	5	5	10	9	20	26	21



福岡県との「見守りネットふくおか協定」をはじめ県内の市町村と事業所で「地域見守り協定」を締結しています。



年々、見守り件数が増え、事例共有がなされることもあり、勇気を持った一歩が垣間見られます。

19

(6) 暮らしの安全・安心に関すること

■ 事業所スタッフが青パト (青色回転灯防犯巡回車) で巡回



協定とは別に福岡市南区では区役所のコーディネートにより、地域の困りごととエフコープの強みをマッチングいただき「青パト」への協力ができています。



企業等が青パトで地域貢献


地域防犯パトロールカーは通称「青パト」と呼ばれ、小学校の登下校時や夜間パトロールなどの防犯活動の際、地域住民に利用されています。

区内の企業等も、青パトを通じて地域貢献活動を行っています。

◇パトロールのお手伝い

エフコープ生活協同組合は、野多目校区で青パトに乗ってパトロールをお手伝いしています。乗り手が不足していた同校区の状況を知り、地域の力になりたいと9月からパトロールを始めました。

エフコープの吉武ちか子さんは「地域防犯の取り組みに貢献できて良かったです。すれ違う小学生が笑顔で手を振ってくれてうれしかったです」と笑顔でした。



笑顔でパトロール

20